

北海道産馬鈴しょの安定供給に関する検討会（第3回）の概要

- 1 日 時：平成24年12月12日（水）13：00～15：15
- 2 場 所：北海道第2水産ビル 3階 3G会議室
- 3 出席者：別添出席者名簿のとおり
- 4 挨拶：道農政部生産技術担当局長より挨拶
- 5 議 題（生食・加工用検討会、でん粉用検討会の合同開催）
 - (1) これまでの議論について
北海道農政部農産振興課より資料1を説明。
 - (2) 緊急雇用交付金を活用した馬鈴しょプロモーション事業の状況報告について
北海道農政部農産振興課及び株式会社ぐるなびより資料2を説明。
 - (3) 「オホーツク産馬鈴しょを食べ比べる会」の報告について
北海道農政部農産振興課より資料3を説明。
 - (4) ジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種の普及拡大に向けて必要とされる対策について
北海道農政部農産振興課より資料4を説明。
 - (5) 意見交換
別添のとおり

出席者名簿

<生産者団体>

氏名	所属・役職等	生食加工	でん粉
鈴木 昭寿	北海道農業協同組合中央会 畑作農業課 主幹	○	○
藤井 正樹	ホクレン農業協同組合連合会 種苗課 課長	○	○
下出 雅佳	ホクレン農業協同組合連合会 玉ねぎ馬鈴しょ課 課長	○	
山本 開造	ホクレン農業協同組合連合会 でん粉課 課長		○
上田 裕之	十勝農業協同組合連合会 農産課 課長	○	○
藤谷 哲雄	上川生産農業協同組合連合会 農産課 課長	○	○
亀山 裕介	士幌町農業協同組合 農産部経済課 主任 ※仲野貴之農産課課長の代理出席	○	○
須藤 昌彦	芽室町農業協同組合 農畜産部 次長	○	○
大西 貢	ようてい農業協同組合 営農推進課 課長	○	○
小野 丈夫	斜里町農業協同組合 営農部 部長	○	○
上野 隆	小清水町農業協同組合 営農部 部長	○	○

<試験研究機関>

田宮 誠司	独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 北海道農業研究センター 畑作研究領域 上席研究員	○	○
古川 勝弘	地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 農業研究本部 北見農業試験場 主査（病虫） ※江部成彦主査（馬鈴しょ）の代理出席	○	○
北 智幸	ホクレン農業協同組合連合会 農業総合研究所 作物生産研究室 次長	○	○

<関連団体・企業>

田島 和幸	独立行政法人種苗管理センター北海道中央農場 農場長	○	○
井上 善幸	財団法人 日本特産農作物種苗協会 十勝特産種苗センター 農場長	○	○
福田 智史	一般社団法人 北海道消費者協会 商品テストグループ技師	○	
虎谷 利一	北海道スーパーマーケット協会 事務局長 ※当日欠席。虎谷氏の意見メモを事務局が読み上げた。	○	
松井 正広	生活協同組合コープさっぽろ 商品本部農産部 バイヤー	○	
植村 弘之	日本スナック・シリアルフーズ協会 カルビーポテト株式会社 馬鈴薯研究所 所長	○	
久郷 真司	サンマルコ食品株式会社 商品部 次長	○	
小山 雅裕	社団法人 北海道馬鈴しょ生産安定基金協会 事務局長		○

<行政>

花岡 正博	北海道農政部 生産技術担当局長	○	○
今井 聡裕	北海道農政部食の安全推進局農産振興課 課長	○	○
内藤 晋介	北海道農政部食の安全推進局農産振興課 主幹（畑作企画）	○	○
河野 勉	北海道農政部食の安全推進局食品生産課 主幹（有機農業）	○	○
千崎 利彦	北海道農政部食の安全推進局技術普及課 主幹（研究連携）	○	○

<オブザーバー>

土橋 勝	農林水産省北海道農政事務所 農政推進課 課長補佐	○	○
------	--------------------------	---	---

<構成員以外の出席者>

河口 真紀	株式会社ぐるなび 法人営業部門プロモーションマネージャー	—	—
-------	------------------------------	---	---

北海道産馬鈴しょの安定供給に関する検討会（第3回）の意見交換概要

1 日 時：平成24年12月12日（水）13：00～15：15

2 場 所：第2水産ビル3階3G会議室

3 意見交換（主な発言内容）

○ 生産者団体

- ・ 平成34年度にジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種の普及を用途横断的に50%とする目標についてだが、でん粉用の抵抗性品種を100%にすることを50%目標の算定根拠にしているので、でん粉用については、毎年度、具体的目標数値を設定しないと、種子生産等の関係から目標を達成することが出来ないのではないか。

○ 北海道

- ・ 生食用別、加工用別に、毎年度の普及面積を設定することは難しい面がある。

○ 生産者団体

- ・ 生食用や加工用ではなく、でん粉用など出来るところからやって行く方が良いのではないか。

○ 北海道

- ・ 北海道農協畑作・青果対策本部委員会によって設置された「馬鈴しょでん粉の安定供給体制確立に向けたプロジェクト」でも、平成34年度に、でん粉原料用品種は抵抗性品種を100%とする目標を設定する方向だと聞いている。でん粉に関する関係者と連携して検討や相談をしていきたい。

○ 関係団体

- ・ 新しい品種が普及することは、消費者にとっても選択肢が増えるメリットがあるが、新しい品種をPRする際には、消費者の目安となる安全性や品質などの情報がわかりやすく提供される事が大事。

○ 流通団体・企業

- ・ 新しい品種ということで、まだまだお客の認知度が低い。この品種はこの料理に適しているなど、消費者に具体的なアピールをすることによって、少しずつ販売を拡大できるものと考えている。

○ 流通団体・企業

- ・ 本日策定予定の対策（資料4）については、基本的に、反対意見はない。
- ・ 第1回、第2回でもコメントしたが、これだけたくさんジャガイモシストセンチュウに抵抗性のある品種（スノーマーチ、ひかる、きたかむい、ゆきつぶら等）があるのに、既存の品種から切り替わっていないのは、PR不足である。
- ・ 大手スーパーのバイヤーにスノーマーチ、ひかる、きたかむい、ゆきつぶら等の新品种について聞いてみたが、知らないという答えが多い。

- ・ 流通団体・企業では、各種勉強会を開催しているので、策定予定資料の中の「消費拡大対策」の一環として、そういう場に道などが出向いて積極的に抵抗性品種のPRをすれば良いと思うし、我々、流通団体としても協力していきたい。
 - ・ ジャガイモシストセンチュウによる悪影響は、生産者だけでなく、消費者や我々実需者にも影響が及ぶことから、我々、流通団体としても、ジャガイモシストセンチュウに抵抗性のある品種の普及拡大について、勉強会などでの協力など、可能な範囲で協力していきたい。
 - ・ 生産者団体としては、既存の品種の大産地をかかえている中で、公に、大手を振って抵抗性品種の普及拡大に取り組み難いのではないかと推察されるし、我が国の食生活に悪影響を与えないようにするという目的があることから、当面は、できるだけ公的な機関である道が旗を振って普及拡大を進めることが大事ではないかと思う。
- 加工団体・企業
- ・ 当社は北海道産の馬鈴しょで加工製品を製造し、全国各地に販売しているが、ここ3年は原料確保に苦労していたので、安定して馬鈴しょを供給してもらえることは良いことと思う。
 - ・ 当社製品でも相当量の道産馬鈴しょを使用しているので、仮に品種を切り替えていく場合は、消費拡大活動として協力できる面があると考えます。
 - ・ 方針（資料4）については、大筋としてこの通りで良いと考えている。
- 加工団体・企業
- ・ 今後10年間で抵抗性品種に換えていくというのは、思い切った作戦が必要になると思う。
 - ・ 良い品種が開発されれば置き換わる事はできるが、中々良い品種が出てこないことが問題である。最近開発された優良品種であっても何らかの問題があり作付面積が伸びていない状況にある。品種がどんどん開発されれば良いと考える。
 - ・ 生産者には新品種に切り換えるリスクが伴うので、この点について、何らかの助成策があれば良い。我々加工企業では、新品種の導入に当たり、生産者からの買取価格にプラスアルファしている。
- 試験研究機関
- ・ 加工用品種については、「ばれいしょ加工適性研究会」などで、試験研究機関と加工企業などの実需者との間で様々な評価や意見交換をしている。試験研究機関の試験では良い成績だが、実需者に実際に加工試験をしてもらうと、思ったほど成績が良くないこともある。加工試験用の新品種候補の馬鈴しょを早期に確保できるようになれば良いと考えている。
- 関係機関
- ・ 本検討会を開催することによって、生産者団体、試験研究機関、関連団体・企業、行政が、抵抗性品種の普及拡大に向けて意志を一つにすることができたと思う。
 - ・ 道外の試験研究機関と連携して、育種選抜の効率化・省力化を進めてほしい。
 - ・ 品種開発体制の強化に関して国への提案を強化してほしい。

- 関係機関
 - ・ ジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種を50%にしていく目標は賛成。
 - ・ 試験用種馬鈴しょの増殖について、対応する品種が増えると、面積的にも体制的に難しくなるため、その場合は、特産種苗協会以外の体制整備も必要になると考える。

- 関係機関
 - ・ 新品種が世にでたときに、地域がどれくらい原原種を必要としているか、種馬鈴しょの増殖機関にきちんと情報が伝わればよい。
 - ・ 種馬鈴しょの需給会議などに出席しているが、新しい品種の需要が把握しにくい状況であり、種馬鈴しょの増殖機関に情報が早く伝われば、種馬鈴しょの増殖は対応できる。

- 生産者団体
 - ・ 一定の指針ができた事は評価する。
 - ・ 今後、地域で取り組みの濃淡が出ないようにお願いしたい。
 - ・ ジャガイモシストセンチュウの浄化については行政にお願いすることもあるが、我々産地による自助努力も忘れてはいけない。
 - ・ 試験研究機関の予算が確保され、マンパワーも確保できるようにお願いする。

- 生産者団体
 - ・ 本検討会での策定予定資料（資料4）については良くまとまったと思う。抵抗性品種の普及拡大は一つの地域では解決しないので、関係機関が集まり論議し、北海道全体での目標がまとまったことは評価する。
 - ・ 試験研究機関に人と予算を付けて、新品種を作ってほしい。
 - ・ ジャガイモシストセンチュウの防除対策は、抵抗性品種を拡大することだけでなく、農作業機械や土の移動など、その他の対策も重要。
 - ・ 年1回は本検討会を開催しフォローアップしていくことも評価したい。目標は掲げたので、後は地域でやってくださいとならないよう、引き続きお願いする。

- 生産者団体
 - ・ 生食主体の産地だが、生食用で新品種を普及させるには、加工企業などの実需者に向けてのPRも同時並行的に進めないとならない。青果販売の需要だけが増えても、青果販売用の規格外などが供給される加工企業の需要の拡大が進まないとうまいいかないことになる。その辺の足並みを揃えた取り組みをお願いする。

- 生産者団体
 - ・ 本検討会は抵抗性品種の普及拡大が目的であるが、本検討会とは別に馬鈴しょ関係の色々な会議が存在する。それらの会議体と連携を取りながら行う必要がある。

- 生産者団体
 - ・ 試験研究機関と生産現場の距離が遠くなっている部分を感じられるので、現地における生産実態や課題を共有し、生産者が求める新品種、新しい技術の導入などを関係者で検討願う。
 - ・ 既存品種を求めるユーザーもあるので、土砂の移動などの防除対策も忘れずをお願いしたい。
 - ・ 今後、関係者それぞれが責任を持って、他人事にならないように実施することが必要。

- 生産者団体
 - ・ 基本的に本検討会で策定予定の資料（資料４）の考え方には賛成。
 - ・ でん粉用では早く収量性の良い品種が出てくることを期待。
 - ・ 生食用・加工用では、今後、キタアカリやとうやの作付面積に並ぶような普及が期待できる品種が２～３種類はでてくる必要があると考えている。
 - ・ PR活動の成果を整理した上で、積極的かつ計画的に品種の転換を進めていく事が必要と考えるので、今後とも関係機関の協力をお願いする。

- 生産者団体
 - ・ 今回の取りまとめ資料（資料４）は良くまとまっている。
 - ・ 北海道ジャガイモシストセンチュウ防除対策基本方針の改正に当たっては、じっくりと腰を据えて、今まで以上に素晴らしいものにしてほしい。
 - ・ 新品種の増殖では誰かがリスクを負わないとならない。そこに財政的な支援があればよい。
 - ・ 種馬鈴しょの増殖については公平に行われるように、積極的な北海道の関与をお願いしたい。

- 生産者団体
 - ・ 新品種の普及については生産者団体としてもPRが不足していた。我々としては、本年度から特に抵抗性品種を中心に、消費者への定着化に向けた取り組みを強化している。
 - ・ 25年度においても、道でしっかりPR事業を予算化し、引き続き全国展開が出来るようにお願いしたい。
 - ・ 品種の開発については、研究現場での予算や人材の確保がなければ良い品種が出てこないなので、この点を強くお願いしたい。良い品種が開発されれば一気に切り替えが進むと思っている。
 - ・ 生食用品種については、生食用の規格外を加工企業に使ってもらえることがセットでないと普及拡大は難しいし危険。生食用については加工適性も踏まえた品種開発が必要。

- 生産者団体
 - ・ 本検討会の取りまとめ資料（資料４）のとおり進めていってほしい。
 - ・ 次年度以降も今回取りまとめた内容の進捗を確認しながら進めていくことが大事。

- ・ 普及目標については当面は50%が目標だが、それが最終的な目標ではないだろう。
 - ・ 抵抗性品種を導入していく産地は、当該地域において種馬鈴しょも安心して生産できる環境となる。
 - ・ 種馬鈴しょについては生産戸数も面積も減少しており、その中で新しい品種を種馬鈴しょ産地において導入して行くに当たっては、新しい品種の栽培特性がわからない状況でリスクをとって種馬鈴しょを栽培しなければならないので、そのようなリスクを補助できれば良いと思う。種馬鈴しょ農家はリスクをとって新品種を増殖することを理解してほしい。
- 生産者団体
- ・ 品種開発については、国の支援制度が変わり生産者団体にも支援を求めている事情もわかるが、今後とも力強く必要な予算の確保をお願いしたい。
 - ・ 今回、本検討会で取りまとめる方針については、足並みをそろえてやっていきたい。
- 試験研究機関
- ・ 本検討会で3回にわたって抵抗性品種の普及拡大について検討してきて、今回、方針が示されたが、ある意味、根幹ができたと思うし、根幹としてはこれしかないと思う。この先、具体的に進める際には、問題など色々でてくると思うので、関係者が一丸となって進めて行かないと、絵に描いた餅になってしまう。
 - ・ 生食用品種については良い品種が開発されれば切り替わるわけではない。切り替えるためのリスクは、現状、産地が一方的に負っているが、その辺のリスクヘッジをどのようにできるのか考えないといけない。
 - ・ 新品種が開発されても種馬鈴しょの増殖には時間がかかり、新品種が世に出てから消費者や実需者への販売が始まるまで少なくとも4年かかる。ブランクができることにより、忘れられてしまう。このように話題性と実際の物の動きにタイムラグが生じることも課題である。
 - ・ 新品種は売ってみないと消費者や実需者の評価がわからない部分があり、常に消費者の声を聞いたり、実需者などのユーザーとキャッチボールすることが必要。品種の普及には時間がかかるので、一足飛びには行かないと思う。
 - ・ 試験用種馬鈴しょの増殖については、整備・検討を進めている。大きな面積に対応できるほど用意できるものではないので、申込みが多い場合はどうするか。また、各試験研究機関の判断で増殖量を決めてよいのか。道の種馬鈴しょの需給会議などを活用する必要がある。そのような場において、各試験研究機関から情報提供などがあっても良いのではないかと考えている。
- 試験研究機関
- ・ 本日の会議で提案されている当該検討会で策定予定の資料（資料4）については、基本的に反対意見はない。
 - ・ 我々としては、ジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種の普及拡大に向けて、策定予定資料の中にある、道内研究機関のより一層の連携強化及び役割分担、新たな有望品種に関する早期の情報提供・共有、道内外研究機関の連携などによる品種開発体制の強化などに取り組んでいきたいと考えている。

- ・ 50%の全道的な普及目標については、ニーズに即した品種を開発する「研究開発体制の強化」や「生産対策」とともに、消費者や実需者へのPR活動である「消費拡大対策」など、試験研究機関としてやるべきことを同時並行的に実施していくことが重要だと考える。
- ・ ジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種の普及拡大に際しては、産地、流通、実需者、行政など、馬鈴しょに携わるあらゆる立場からの一体的な取り組みが不可欠と考える。我々としても、本日お集まりの皆様と共に、連携して取り組ませていただくことを期待している。

○ 試験研究機関

- ・ 生食用については、生食で売れるだけではダメで、加工用としても扱われることが大事だということを確認したので、それらを考慮しながら品種開発に取り組んでいきたい。
- ・ 抵抗性品種が拡大していくに当たっては、途中で様々な問題が発生すると思うので、その時には生産者、消費者、実需者などの意見を頂いて、それらを品種開発にフィードバックしながら対応していきたいと思うので、よろしくお願いします。

○ 北海道（座長）

- ・ 本日は、皆様方から色々なご意見を頂いたが、本検討会の取りまとめとしての資料4-1、資料4-2については、概ね、出席者の皆様方のご賛同を得たと考えているが、何かご意見等はあるか。異論なしでよいか。

（出席者より異議はなかった。）

○ 北海道（座長）

- ・ それでは、本検討会の名義で資料4-1、資料4-2を決定することとする。
- ・ 本日、「絵に描いたもち」にならないようにとの意見があったが、今後は、平成34年度の50%の目標の達成に向けて、道としては、本日まとめた対策について、皆様と連携しながら抵抗性品種の拡大に努めていきたい。皆様におかれてもご協力をお願いしたい。
- ・ 本日は、資料4-1、4-2の取りまとめについて、確認させて頂いたということで、第3回の検討会は終了させていただきます。

○ 北海道

- ・ 来年度以降も、抵抗性品種が市場に出回る秋冬頃に本検討会を開催し、本日決定した策定資料（資料4）の進捗状況などを確認したいと考えているので、皆様には、引き続き本検討会への参画をお願いします。

（以上）